Q7

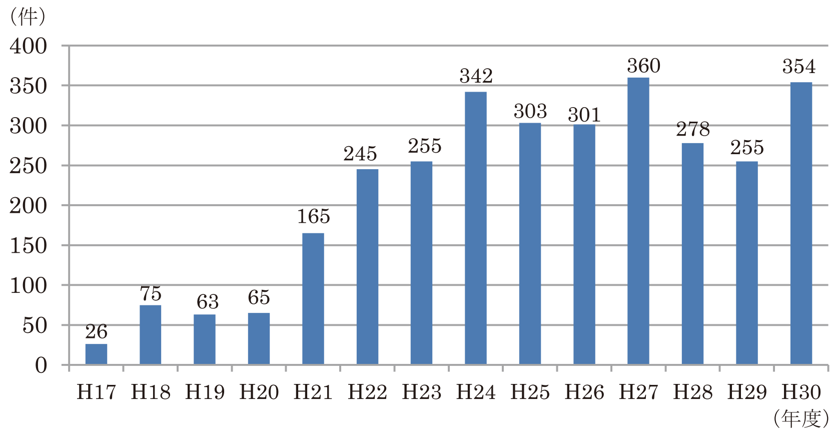
なぜ駆除が難しいのですか？

A7 トコジラミのメスは毎日5-6個の乳白色の卵を産みますが、その大きさは1mm程度で肉眼での発見はきわめて困難です。しかも何処へ産み落とすか分かりません。壁の裏、コンセント板の裏、壁の隙間、などに産み落とされると発見できません。2週間もすると孵化した幼虫が、吸血を始めます。生まれた幼虫は1-2mm程度でこれも発見が困難です。一旦生息が拡大すると、駆除はそれだけ困難になります。

大切なことは、早期発見、早期駆除ですが、少ない段階での発見はきわめて困難です。今の所、早期に探知する方法が開発されていないのです。目で調べることが主体になるだけに調査に時間がかかり、それだけ駆除経費が高くなり、ゴキブリ駆除などに比べかなり割高になります。駆除には殺虫剤が主に使用されていますが、広く使用されているピレスロイド系殺虫剤に抵抗性を持つものが増えつつあるとの報告もあります。最近の一般家庭には、衣類、本、カバン、電気製品など実に多くの物がありますが、これらにも卵や幼虫が付着します。すべてを調べ、除去することはきわめて困難です。衣類は洗濯や熱風乾燥で駆除できますが、本、電気製品などはどうするか問題です。

米国でも急な被害拡大だけにその防除研究がやっと始まったところです。防除業界のプロも世界の研究者の知恵に注目しているといったところです。

東京都におけるトコジラミ相談件数



東京都では、毎年、都内の保健所や市町村から寄せられる衛生害虫等の相談件数を集計しています。表のとおり、トコジラミの相談件数が多くなってきています（この調査は相談件数の調査であり、被害状況や発生状況を表すものではありません。）。

トコジラミを早期発見するためには、日頃から客室の清掃や寝具の交換などの際に、トコジラミの潜みやすいポイント（Q３参照）を点検することが重要です。そのためにも、施設管理者は従業員の方々にトコジラミについて周知しましょう。

もしトコジラミの痕跡（黒い点々とした排泄物など）や虫体を発見した場合は、早急に適切な対応をしましょう。駆除は、経験豊富な防除業者に依頼することをおすすめします。

＜トコジラミの駆除に関する問合せ先＞
公益社団法人東京都ペストコントロール協会
〔電話〕03-3254-0014
http://www.pestcontrol-tokyo.jp/

この印刷物は、公益社団法人日本ペストコントロール協会の許諾を得て作成しました（一部修正）。

登録番号（31）398　令和２年２月発行
編集・発行　東京都福祉保健局健康安全部
環境保健衛生課
新宿区西新宿二丁目８番１号
電話：03-5320-4391
印　　刷　東京都大田福祉工場
電話：03-3762-7611

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

写真提供
国立感染症研究所 昆虫医科学部

旅館業に携わる施設管理者のみなさん
トコジラミに注意してください！！

トコジラミ Q&A

近年、トコジラミ（ナンキンムシ）の発生、被害件数が増加しています。
トコジラミは、カメムシの仲間で主に夜間にヒトを刺し吸血します。
刺された部位には、個人差はありますが、強いかゆみの症状がでます。
このかゆみによって、不眠など体調に不調をきたすことがあります。
また、殺虫剤に抵抗性を持つトコジラミが報告されており、
駆除することが難しいのです。
トコジラミ発生の可能性がある場合は、ペストコントロール業者に調査、
防除を依頼しましょう。
この厄介な虫トコジラミについて、Q&Aで詳しく解説いたします。

東京都福祉保健局

トコジラミ Q&A

Q1 トコジラミ（南京虫）とはどんな害虫ですか？

A1 名前はシラミですが、分類学的にはカメムシの仲間。体は丸く、扁平で、色は褐色。人やペットから吸血します。刺された人はかゆくてたまりません。吸血後はその周りの寝具や家具の隙間に潜りこみます。メスは1日5-6個の卵を産み、2週間もすると幼虫になり、1-2ヶ月で成虫になります。成虫は3-4ヶ月は生きています。その間、幼虫も成虫もメスもオスも吸血します。メスは生涯に200-500個も産卵しますので、またたく間に増加します。

吸血しなくても1年くらい生きていることがあり、長く空室になっていた部屋でも被害を受けることがあります。

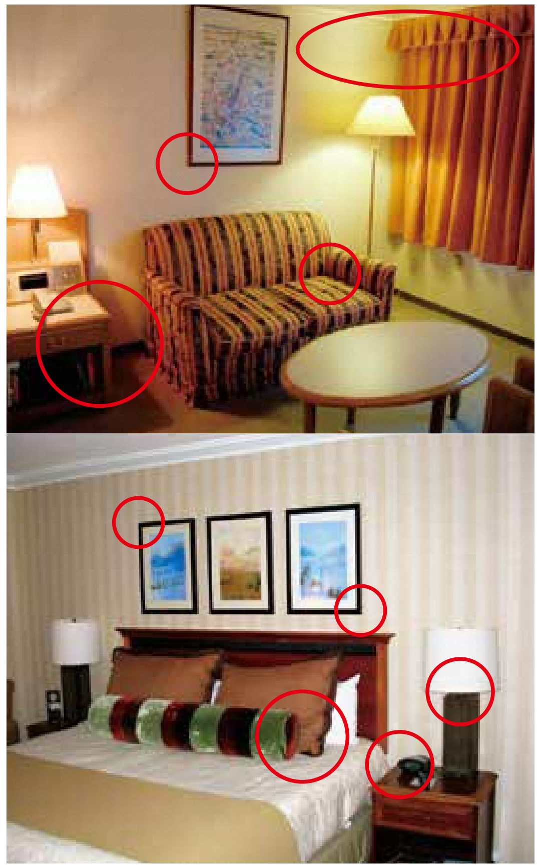
Q2 どんな害を及ぼしますか？

A2 就寝中に体に取りつき3-10分も吸血します。初めて刺された人はかゆくなりませんが、何回か刺されるうちに体内に抗体が形成され、かゆくなります。アレルギー反応ですから、すぐにかゆくなる人と、1-3日してかゆくなる人がいます。今の所、病気を媒介するという確たる証拠は発見されていませんが、刺された人は、不眠症、神経障害、発熱などの症状になることもあります。掻き過ぎて皮膚に傷がつき、細菌による二次感染で傷口が化膿することもあり、日常生活が大きく損なわれます。

Q3 どんな所にいるのですか？

A3 一番多いのは、寝室です。ベッド周りをはじめ、あらゆる隙間に潜り込んでいます。風呂場や厨房にいることは通常ありません。

例としては、ベッドの頭のところにある板と壁の間、家具の隙間、引き出しの裏、電話機、TV、たんす類、衣類ケース、壁と床の隙間・幅木、カーテン、壁にかけた絵の裏などです。ソファーの隙間・裏などにいることもあります。和室では、ふとんを入れる押入れ、畳の縁・裏、床の間などです。



Q4 なぜこんなに世界中に広がったのでしょうか？

A4 多くの原因が関与していますが、近年の人・物の世界規模での交流、海外旅行、ビジネス出張の増加です。卵や幼虫が荷物に付着して世界規模で拡大しました。かつて第二次大戦後の日本には広くまん延していましたが、DDTや効力のある薬剤により、東京オリンピックの頃には日本中すっかりいなくなりました。効力のある薬剤がなくなったことや、広く使用されているピレスロイド系殺虫剤に抵抗性を持ったトコジラミが増え、駆除が困難になったことも原因です。防除の専門家もトコジラミを知らない世代になり、その防除技術も消滅していました。このような各種の原因によって2000年に入って世界の先進国で再興が始まったと考えられています。

Q5 どのようにしてあちこちに被害が広がるのですか？

A5 トコジラミは人に近いところで人に依存して生息しているだけに、人が使用する色々なものに付着して潜り込み、あちこちに広がる厄介な害虫です。こんな例もあります。

▶トコジラミの住み着いたベッドに座った際、トコジラミが衣服に入り込み、移動先にも広がった
▶トコジラミのいるホテルの部屋にカバンを置いたところ、産卵されそのまま自宅に持ち帰って被害が広がった
▶ホテルでトコジラミの付着したシーツをカートに入れたため、他の新しいシーツに移り、他の部屋にも広がった
▶アパート内の親しい友人の部屋をお互い行ったり来たりしているうちに被害が広がった
▶病院の1室でトコジラミを発見しすぐに駆除したが、1年後には11部屋、2年7ヶ月後には67部屋に広がった
▶各種配管、配線、ダクト、天井裏、ドアの下の隙間、壁の隙間などを利用し、あちこちの部屋に広がった

Q6 ホテル、旅館などの宿泊施設での対策は？

A6 トコジラミ駆除の経験豊富な防除業者に依頼することです。被害を受けた部屋を徹底的に調査します。トコジラミは潜伏場所の付近には黒い点々とした排泄物を出しますので発見の目印になります。ベッドを分解し、薬剤で駆除します。ベッド周りの家具、電気製品、壁の絵、カーテンなども丁寧に調べ駆除あるいは廃棄します。シーツ類はビニール袋に入れ固く縛り、他のものと区別してください。このような調査・駆除は周囲の部屋、できたら同一フロアのすべての部屋で実施することです。

※掲載の写真は、イメージ画像です。